様式２-２ 別紙２ **鹿島市　ななうら　干潟とめだかの里保全活動実施計画の概要**　　申請者：**鹿島市**　　**【維持タイプ】**

【実施区域・面積】

佐賀県鹿島市、3.114ha

【生態系タイプ】

水田、河川、干潟

【実施区域の状況】

本サイトは佐賀県鹿島市南部の七浦地区に位置し、天子神社周辺の里山水路、音成川、干潟域といった里川海干潟という繋がりが形成されている。サイト内淡水域ではミナミメダカの生息が確認されており、水路と海をつなぐ音成川河口ではヤマノカミが確認されている。日本最大の干満差を有する有明海に面した干潟域は『道の駅鹿島』に近接し、ガタリンピックの会場や干潟体験、環境教育の場として活用されていると同時にウミマイマイといった希少な干潟生物の生息の場にもなっている。

また、干潟域では『むつかけ』『すぼかき』『たなじぶ』といった有明海の伝統漁法を体験することができる。

【目標】

観光・環境教育の拠点として『見て・触れて・体験する』コンテンツを活用し、交流人口の増加・地域活性化を推進すると同時に豊かな生物多様性環境を次世代へとつなげる。

【主な活動内容】

①【干潟ゾーン】市内小学生を対象に「生物を探す」というテーマを設けた環境教育を実施。小学生とともに確認した生物種はモニタリング結果として活用する。隣接する道の駅鹿島では有明海の『むつかけ』や『すぼかき』、『たなじぶ』といった伝統漁法を体験することができ、体験を通じて生態系サービスを実感することができる。干潟は人が入ることで底泥内部の酸素循環が行われ生物の生息環境を健全に保つことができ、交流人口の増加は生物生息環境の保全につながる。

②【めだかの楽校ゾーン】江戸時代から続く伝統祭事「音成の面浮立」を守る地域活動の一環として清掃や草刈り、水路の泥上げが行われており、伝統を守る活動を通して希少生物の生息生育環境の保全に繋がっている。ビオトープでは地域の子どもたちとめだかの観察会や昔の遊び教室といったイベントが行われている。また、域外の人に伝統文化を見てもらうことは地域の誇りを醸成し、郷土愛を育む。活動が持続的に行われることに伴い地域の生物多様性も保たれる好循環を生み出すことができる。

③【音成川ゾーン】有明海の伝統漁法『うなぎ塚』を設置して地元高校生等と共に生物調査を実施。伝統と有明海の今を知ることで今後も守るべき豊かな生物多様性環境と人の関わり方を学ぶことができる。

【モニタリング計画】

【干潟ゾーン】　干潟の生物を対象に市内小学生の環境教育実施時の出現種を記録（9～10回/年）
隔年で生態調査を実施

【めだかの楽校ゾーン】　魚類・水生昆虫を対象に隔年で生態調査を実施

【音成川ゾーン】　魚類・水生昆虫を対象に隔年で生態調査を実施

【計画期間】 令和７年9月～令和12年8月



環境教育の様子

佐賀県重要無形民俗文化財『音成の面浮立』

【実施体制】

☆株式会社七浦：干潟体験運営管理　（活動内容①）

☆肥前鹿島里山未来拠点協議会：区域内モニタリング調査およびとりまとめ（活動内容①②③）

☆音成めだかの楽校：めだかの楽校ゾーンの保全・維持管理およびイベントの実施（活動内容②）

☆鹿島市ラムサール条約推進協議会：区域内での環境教育の実施（活動内容①②③）

☆まえうみ市民の会：うなぎ塚の設置・調査（活動内容③）